

水戸殉難者恩光碑保存会 会報

知恩

第十六号

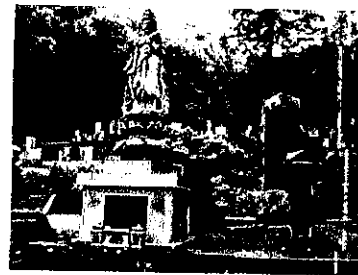
飯盛山 白虎隊士の墓

会津・鶴ヶ城籠城戦で
戦い戦没した水戸藩士
の慰霊碑
平成12年に建立

白虎隊記念館敷地内



会津戊辰戦争で戦死、自刃した
婦女子慰霊 と 観世音菩薩像
233人の女性の慰霊碑
なよ竹の風にまかする身ながらも
たわまぬ節はありとこそきけ
善竜寺



長命寺 「戦死墓」
将卒百七十余人の墓



阿弥陀寺 境内

「戦死墓」
会津戊辰戦争鶴ヶ城籠城戦で戦い
戦没した会津藩士の墓
茲に会津藩士1300人が葬られ
ている、



水戸藩士も共に、葬られている
「葵の御紋」が光っている

追悼の辞

本日、ここに、会津戊辰戦争・水戸藩戦没者慰霊式にあたり、ご来賓の皆様・列席のもと、水戸から参りました皆様一同、「水戸藩諸生党鎮魂碑」の前に集い、謹んで戦没諸士の皆様に哀悼の意を表します。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い、国事に奔走し、時勢とはいえ、水戸を離れて、この会津の地で、尊皇敬慕、報恩士道の信念のもと、会津藩の皆様と共に、薩長軍と戦い、各地に戦没されたことを思うと痛恨の極みであります。心から、殉難諸士のご冥福をお祈り申し上げます。

又、私達は、この慰霊式に当たり、同じ・尊皇敬慕の信念のもとに戦った白虎隊士をはじめ、会津藩戦没者の皆様に、鎮魂慰霊の誠を捧げ、心から、ご冥福をお祈り申し上げます。

水戸におきましては、近年、水戸藩幕末史を客観的に見直そうという気運が高まり、「諸生派」に関心を寄せる人も多くなりました。諸生派殉難諸士の慰霊式に、行政

代表の方も参加するなど、諸生派への関心と殉難諸士への畏敬の念も高まりつつあります。その中でも、殉難諸士を最も深く理解し、諸士の武士道を最も高く讃えておられた名君こそ、ご当地、会津九代藩主「松平容保」公であります。

明治十七年「弘道館の戦い」十七回忌に当たり、水戸神応寺に、「諸生党」追悼碑が建設されました。

容保公が、その碑文をお書きになつておられます。容保公は、「戊辰戦争」に対するご体験と、そのご心境から、殉難諸士を心から哀悼し、その武士道を高く讃えておられます。

ここで、その一部を拝読し、諸士の霊に捧げます。

明治戊辰の変、宗家転覆を悲しみ、慷慨発奮、死を水戸、会津越後等の地に致す者、

凡そ三百人、碑を水戸城西、神應寺に建て、余をして、之を銘せしむ。余亦、戊辰の乱に遭い、矢石の間に間関する者、銘に臨んで豈凄然の気なからんや。銘に曰く。

何ぞ以て、主恩に報ぜん、唯一死あるのみ
死其の所を異にするも、魂は同じく桑梓に帰す
其の志、乃ち遂ぐ。
地高く、豊碑千祀に伝う。

以上、松平容保公のお言葉を奉載し、追悼の辞と致します。

平成二十六年四月二十一日

水戸殉難者恩光碑保存会
会長 川上有文



明治元年 会津戊辰戦争
東軍（会津軍）対 西軍（薩長軍）の戦い

水戸藩諸生派市川勢戦没者姓名

◆明治元年、戊辰戦争会津若松城攻防戦において水戸藩士は会津軍と共に、薩長軍と戦い、次の人々が戦死しました。

次の方々が記録に残っています。

◆姓名・次のとおり

岩上彦左衛門

薄井友衛門昌殿

大森弥三左衛門信任

大高清介

荻昌介君賢

佐々木治兵衛

高田秀三郎

高橋木一郎

高橋与蔵

瀧徳太郎

宮田金蔵清広

宮崎弥介

松本辰蔵

江幡義之介

福田義介

この戦没者を慰霊供養する

大目付

家老

鷺子村郷士

徒士

与力

馬廻組

合図役

徒目付

寺社役

寺社役

寺社役

「水戸城址」幕末残照

原作・鈴木茂乃夫
調整・前沢瑞穂

一世に魁て開く梅
紅と白とに咲き分かれ
菊と葵の盾となる
誠は一つ 道二つ

二 報恩大事と決起せる
藩の宿老重臣も
故郷をあとに西東
我が子わが妻いかならむ

三 会津 新潟 出雲崎
戦野を駆ける草枕
佐渡が島より望しは
栄枯を映す郷里の月

四 同志会津の城は燃え
めざすは風雲水府城
されど守りの陣固く
勇む諸生の夢空し

五 ご三家藩士の名に恥じず
文武鍛えし学びやの
弘道館も今やはや
矢弾の中に煙りつつ

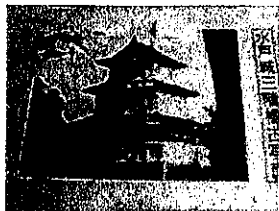
六 望み新たに下総へ
武運拙し松山戦

水府勇士の夢の跡
今 鎮魂の梅薫る

七 千卒万苦踏み越えし
報恩一途 門閥士
偲びて集い語る日の
落日寂し 水戸城址

八 血もて洗ひし同胞の
声かと紛う風蕭蕭
恩讐はるか去りし今
共に語らん水戸の史

水戸城二の丸 三階櫓古写真
昭和20年8月2日 戦災にて消
失



水戸城 大手門
古写真



◆慰霊式後の直会に於いて
高橋丈夫水戸市議会議員
ご挨拶



早川廣中白虎隊記念館館長
ご挨拶



水戸藩国事殉難者慰霊式参加者
来賓

◆水戸市より

高橋丈夫様 水戸市議会議員
本多清峰様 水戸市教育長

追悼メッセージ

中里誠志郎様 水戸市教育次長
渥美賢吾様 水戸市文化財係長
川上 清様 水戸有志を偲ぶ会理事

◆会津若松市より

早川廣中様 白虎隊記念館館長
畑敬之助様 秋月悌次郎顕彰会長
坂内 實様 会津史談会会長
野口信一様 会津歴史考房主宰

◆会員参加者 「先祖」

川上有文 会長

前沢瑞穂 副会長

岡見円礼 常任理事

平戸吉衛 理事

弓削徳衛 理事

田口 寛 理事 寛氏

市川達也 理事 市川氏

阿部富八 会員

国井正壽 会員

影山幸雄 会員

塩澤浩一 会員

朝比奈みつ子 会員 朝比奈氏

倉本元子 会員 朝比奈氏

小滝和子 会員 朝比奈氏

谷田部良子 会員 朝比奈氏

会津戊辰戦争 水戸藩戦没者慰霊式 式典次第

水戸殉難者恩光碑保存会

(別名) 水戸藩国事殉難士を慰霊する会

1	総合司会 慰霊式典 開式	次第 11:10~11:40	岡見円礼 事務局長 4月21日 水戸藩諸生党鎮魂碑 前	川上有文 会長 本多清峰 様	中里様代読
	追悼の辞 追悼の辞 呼名 焼香参拝		水戸殉難者恩光碑保存会 水戸市教育委員会教育長 川上 会長 前沢瑞穂 副会長 水戸市議会議員 水戸市教育委員会教育次長 白虎隊記念館館長 秋月悌次郎顕彰会会長 会津史談会会長 会津歴史考房主宰 幕末維新水戸有志を偲ぶ会理事長 水戸市教育委員会文化課長 参加者	高橋丈夫 様 中里誠志郎 様 早川廣中 様 畑敬之助 様 坂内 實 様 野口信一 様 川上 清 様 武田和馬 様	
	自由 焼香参拝 閉式				
2	直会	昼食懇親会 11:50~13:20	次第 4月21日(月) [会津幸泉小法師]		
	開会の辞 来賓ご紹介	会津	前澤副会長 白虎隊記念館 館長 (水戸藩諸生党鎮魂碑建立 当初から ご指導頂いております) 秋月悌次郎顕彰会 会長 元会津史談会 会長 会津史談会 会長 会津歴史考房主宰 元市立 会津図書館 館長 (NHK大河「八重の桜」の資料提供と時代考証ご担当)	早川廣中 様 畑敬之助 様 坂内 實 様 野口信一 様	紹介者 (阿部) " " "
	水戸		水戸市議会議員 元議長 水戸市教育委員会 教育次長 幕末維新水戸有志を偲ぶ会理事	高橋丈夫 様 中里誠志郎 様 川上 清 様	(前澤) " "
	1 主催者挨拶 2 ご挨拶 "		川上会長 白虎隊記念館館長 水戸市議会議員 (スピーチ)	早川廣中 様 高橋丈夫 様	
	3 乾杯 4 会津史談会の近況 5 「八重の桜」と鶴ヶ城		秋月悌次郎顕彰会会長 会津史談会会長 会津歴史考房主宰 前澤副会長 (お礼と今後の日程報告)	畑敬之助 様 坂内 實 様 野口信一 様	
	閉会の辞				
3	直会 後	13:30~15:30	見学 参拝 見学 記念写真撮影 買い物など		
	白虎隊記念館 白虎隊お墓 鶴ヶ城{外観} 鶴ヶ城会館				
	本日の予定・全部終了		午後3:30 鶴ヶ城会館駐車場 集合 午後3:40 駐車場 出発・水戸へ 午後6:40 水戸着予定		(時間厳守)

会津戊辰戦争・戦没者慰霊と 史跡見学の旅

平成26年4月21日、予定通り、明治元年、会津・鶴ヶ城籠城戦に於いて、会津軍と共に、戦った水戸藩戦没志士を偲び、白虎隊記念館敷地内に建立された「水戸藩諸生党鎮魂碑」の前で慰霊式を行いました。

当日は、あいにく、雨もようとなりましたが、参列者一同「約30人」、鎮魂碑前に集い、関係者が花を供え、会長が追悼の辞を読み上げ、又、水戸市教育委員会・中里教育次長が本多清隆教育長の追悼の辞を読み上げて、小雨降る中、厳粛に、慰霊式を行い、戦没者の慰霊・供養を行いました。

福島県からは、早川廣中・白虎隊記念館館長、畑敬之助・秋月悌次郎顕彰会会長、坂内實・会津史談会会長、野口信一・会津歴史考房主宰の先生方も参列されました。

会津の山河は、会津戊辰戦争で斃れた人々の霊が、今なお満ちている。それを弔うべく、毎年各所で慰霊祭が行われ、線香の香が絶える時がない。と言われています。

会津の史跡を訪ねて、会津戊辰

戦争の実情を知れば知るほど、涙あふれる思いであり、多くの人々は、その真実を理解するのではないでしょうか。

私達は、幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い、国事に奔走し、時勢とはいえ、水戸を離れて、会津の地で尊皇敬慕、報恩士道の信念のもと、会津藩の皆様と共に薩長軍と戦い、各地に戦没した殉難諸士のご冥福を心からお祈り申し上げます。

又、私達は、同じ・尊皇敬慕の信念のもとに、戦った白虎隊士を初め会津藩戦没者の皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

早川館長さんには、平成12年、「水戸藩諸生党鎮魂碑」建立当初から、戦没者の供養にご協力を頂いており、野口先生には、NHK大河ドラマ「八重の桜」の資料提供と時代考証をご担当されたとの事を伺いました。式典のあと、会津の先生方と懇親・交流のひと時を過ごし、直接、貴重なお話を頂きました。

直会終了後、白虎隊記念館を見学、早川館長さんに直接説明を頂いた後、坂内会長と案内者の説明を聞きながら、白虎隊士墓を焼香

参拝し、そのあと、鶴ヶ城と今・満開の城内の桜を觀賞し、全員無事に、帰途に就きました。

会津の先生方のお話を頂き、実りある、有意義な慰霊の旅でありました。

今後は、より多くの人々と共に、会津戊辰戦争の真実を理解すべく、再び、会津を訪ねたいと思います。会津の皆様にお礼を申し上げます。とともに、さらに、水戸と会津の交流を深めて参ろうと、心新たにしたいと思っております。

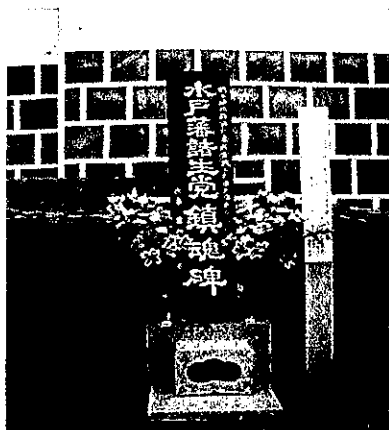
以上
「川上」



諸生党鎮魂碑 前
小雨もようでした



水戸藩戦没者を慰霊する碑



◆早乙女 貢 先生・著書

続会津士魂を上梓するにあたって序文より（一部省略）」

戊辰戦争といえは、会津ではまだ昨日の出来事のように、生生しく肌身に迫ってくるものがある。会津地方をかたちづくる広大な盆地と、四囲の山脈の四季それぞれ

の風色も、嵐気も、川の声、地の呻きにも、戊辰戦争の犠牲者の痛恨が秋虫のすだきのように立ち上り、歴史の傷跡を思い出させずにはいない。

会津と会津人が受けた屈辱と傷痕は、それだけ重く、深い。戦前・戦中は、一億総動員のために、勤皇・佐幕の図式を正・邪に置き換えられて、徳川幕府と会津藩は朝敵の汚名をくりかえし、重ね塗りされた。

歴史が意図的に政治目的に利用されたのだ。明治維新政府の工作にはじまり、軍国主義に継承されて一世紀に垂んとする長年月が、多くの日本人に誤った歴史認識を植えつけて、戦後に至っても尚、それは改められることなく会津の山野に慟哭は満ちていた。

歴史の翳りが明らかにされ、大多数の人々が真実を知ったとき、はじめ、会津の天地は、その温和な相貌をとり戻し、風は清新に草木は甘やかに豊かな緑を満ち溢れさせるに違いない。

戊辰慶応四年九月、会津鶴ヶ城は孤立の果てに籠城戦に疲れ降伏開城するに至った。正義の戦いも衆寡敵せず、白虎隊の少年たちの悲劇に象徴される哀しくも雄々しい敗軍であった。十八年の長年月、一つの小説を書き続けるといふことは、ただ根気だけでなく、「朝敵」

「賊軍」の汚名を霽らし、歴史の真実を明らかにすることで、三千余の非業に死んだ戊辰の犠牲者の霊を慰める、鎮魂の目的があればこそであった。

会津の山河を追われ、不毛の地斗南「青森県」に流罪にも似た過酷な運命を強いられた人々は、四散を余儀なくされた。私が旧中国ハルピンで生まれたことも、その一つの例証である。

戊辰戦争から、六十年目の昭和三年には容保公の孫娘にあたられる・節子姫が、秩父宮にお輿入れあつて、勢津子妃殿下となられたことであり、漸く朝敵の汚名が消えると会津では三日三晩提灯行列で祝ったという。

そして、また、六十年経た今日、第二皇子礼宮妃に決定した紀子さんの母方の祖父は会津藩士で大阪市長となつた池上四郎とか。これもまた奇しくも、喜ばしい因縁というしかない。

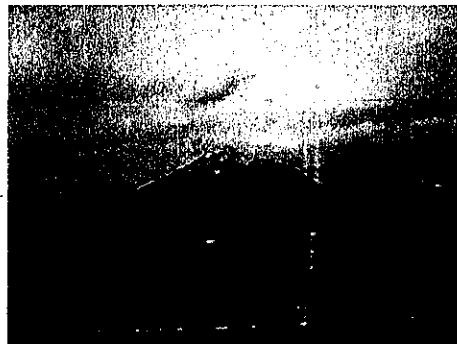
鶴ヶ城開城による敗戦の痛手は会津藩士とその家族五万余の人々を困苦と貧窮と絶望で打ちのめしたが、斗南「青森県」に蝦夷「北海道」に、新天地で生き抜く姿にこそ、真の会津士魂があるといえる。

平成元年霜月

秋風騒然たる日

早乙女 貢

会津 磐梯山



会津 鶴ヶ城



◆前田恒春様・遺稿より

洋の東西、時代の如何を問わず、歴史の歯車は、時の権力者の正義を軸にして動く。勝てば官軍である。明治維新が300年に及ぶ徳川幕藩体制の殻を破って世界に門戸を開放し、日本の近代化の夜明けとなったことに異論をさし挟む余地はないにしても、その時代に息づいていた人々にとつては、それぞれの立場でひたすら思いを募らせていた信念もあれば、正義もあつたのである。

水戸藩諸生派は、会津藩と共に、戊辰戦争を勇敢に戦つたが、その戦意の根源は、勤皇の正義は我にありとして、薩長こそが、むしろ錦旗を傘に着て、策謀を逞しくする私欲の輩と見なしていたからと判断せざるを得ないのであります。諸生派の歴史は、いまだに、その大半が埋もれたままになっていゝる。否、その時代から、すでに、百数十年を経て、いまや、抹殺されてしまったと言つても過言ではないと思ふのであります。会津藩主・容保公をはじめ、全軍が出撃して、わずかの老兵と婦女子が守る本城に土佐軍の一隊が殺到してきた。その時、水戸藩諸

生派市川勢は会津落城の危機に際し城の防禦に奮闘したのである。後に、新島襄の夫人になる山本八重らは男装して銃をとり防戦した。三の丸に待機していた市川勢の一隊も駆けつけてきて交戦した。又、会津藩家老西郷頼母に率いられて冬坂に出撃していた朝比奈、大森の水戸勢も急を聞いて駆け戻りあわや落城かと思われた危機を救つたのである。

会津開城は9月22日であつたが、それより丁度一カ月前の出来事であつた。9月2日、大森弥三左衛門が戦死する。大森の従卒は主人の首が敵に渡るのを恐れ、自ら、主人の首を刎ねてその場から逃走、密かに水戸に持ち帰り、水戸郊外の常照寺に仮埋葬した。このことである。

会津九代藩主松平容保公は尾張藩主義勝公、桑名藩主容敬公と兄弟であり、会津藩に養子入りしたのである。その祖父・尾張支藩高須藩主義和公は水戸六代藩主徳川保公の二男である。会津十代喜徳公は水戸九代藩主徳川斉昭公の十九男で養子入りし

たのである。(後に水戸に戻る) 將軍徳川慶喜公の弟である。水戸とは縁の深い会津藩であつたのである。元仰天会事務局長 前田恒春

◆室田義文翁の談話 水神社発行 水社みと第2号 昭和11年10月・春秋第15号より

恩光碑保存会・初代副会長・関東氏との直話

関・曰く 室田先生は一個人にて近き将来において左幕派慰霊碑を建立するの御意図ありと聞く何卒其御趣旨を拝承致度し云々。

室田義文翁・曰く 格別の理由はなきも、弘道館時代の友人が諸生派に属し大部分仆れて居るを以て頗る同情に堪えざるの余り、其挙に出でんと企画しあるは事実である。兎に角、昭和聖代の今日、天狗諸生でもあるまいじやないか。一方に勤皇派忠魂塔が建立せられたのであるから、此の際左幕派の

為、建碑をなすことにすれば、かつては、彼我主義の相違より出發点を異にし、互いに反目殺戮を敢えてしたる殉難志士の英霊も、笑つて地下に握手し、既往を語り合い喜んでくれるだろう。要するに、両派ともに、各其の君に対して尽くしたる誠忠に至つては、豪も異なる所はないのである云々。

常磐神社 境内 室田義文翁記念樹・桜



本年も満開に咲いています 室田翁は天狗派・水戸藩士です 明治時代には外交官として、活躍しました。

茨城新聞記事より

弘道館、全面復旧で公開

正庁と至善堂、

孔子廟、弘道館記碑

2011年(平成23年)3月11日の東日本大震災で被災した弘道館(水戸市三の丸1丁目)が全面復旧し、25日、正庁や至善堂、孔子廟、学生警鐘などが報道陣に公開された。特に、正庁と至善堂は耐震補強が施され、「震災でも倒壊しなかったが、今後もできるだけ、倒れないようにしている」(施工業者)という。27日から一般公開される。

孔子廟は一足早く12年12月に復旧完了している。碑面の約半分が崩落する被害を受けた弘道館記碑は13年3月から10月にかけて修復された。

孔子廟と弘道館記は通常非公開、

3月27日より4月6日まで特別公開されました。

★全・水戸藩士は、この藩校弘道館で水戸学を学んでいました。後日(元治元年)、天狗党と諸生派に分かれて藩内抗争したのは、ご存知の通りです。

水戸藩校

弘道館

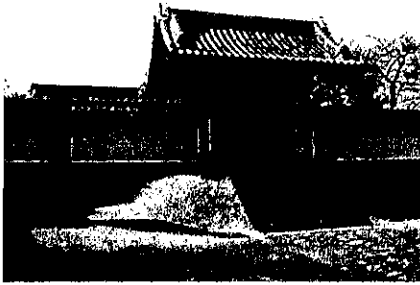
正庁



水戸藩校

弘道館

正門



水戸藩校

弘道館

正庁



編集後記

★4年ぶりの会津行き、会津の皆様には大変お世話になりました。皆様の元氣な姿に接し、いろいろと、貴重なお話しを頂き有り難く、感謝申し上げます。

★昨年は、大河ドラマ「八重の桜」で、全国に、会津戊辰戦争の真実が伝わり、理解が深まったのではないかと思います。

★このことは、水戸藩諸生派にも言えることであり、理解の輪が、更に、広がる事を願っています。水戸藩諸生派が朝敵・逆賊とは、どうしても納得できない。山本八重さんと同じですね。

★水戸殉難者恩光碑保存会 別名

水戸藩国事殉難志士を慰霊する会

★会報知恩第16号

平成26年6月1日発行

編集顧問 前澤瑞穂

編集委員 川上有文

編集委員 岡見円礼

編集委員 朝比奈泰紀

編集委員 深谷益美

印刷・作成 編集部

★会費納入のお願い

本会は、会員の会費(年・二千円)のみで運営しています。会費未納の方は、是非、会費納入をお願い致します。

郵便局の口座

口座番号 00190-0-669569

口座名 水戸殉難者恩光碑保存会

★経費節減のため、会報送り状は省略致します。